

令和5年度 事業報告

第1 事業の概要

令和5年度の事業運営に当たっては、農業経営の安定を図るため、行政や関係機関等の協力を得て、「収入保険制度」と「農業共済制度」の二つの農業保険制度について周知を図るとともに、NOSA I 役職員の総力を挙げて両制度の普及推進に取り組んだ。併せて、各事業の引受・損害評価の適正実施、効果的な損害防止事業の実施などに努めた。

その結果、農業共済事業の引受は、全体的に高齢化等による経営規模の縮小や廃業・収入保険事業への移行等の影響で減少し、全事業の総共済金額は9,847億5,300万円余で前年度対比96.2%となった。一方、収入保険事業の引受は、令和4年度に引き続き、組合目標2,400経営体達成に向け、全職員を挙げて戸別訪問を中心に加入推進に取り組んだが、1,823経営体の加入に留まった。

農業共済事業の被害関係は、台風や降雪などの大きな被害はなかったが、一部の地域において、凍霜害の影響により、果樹への被害が発生した。全事業の支払共済金総額は10億1,408万円余で前年度に比べ被害の少ない年であった。一方、収入保険の支払いは、令和4年加入において、降雹や長引くコロナの影響による収入減少等により、加入件数の4割にあたる554経営体に対し、約14億3,200万円、一経営体当たり258万円の保険金が支払われた。

損害防止事業については、加入者へ要望調査等を実施してニーズの把握に努め、損害の未然防止に努めた。

業務収支については、事業運営に必要な経費である国庫事務費負担金が4億7,370万円余と前年より約822万円余の減となり、収入計では14億3,440万円余となった。また、支出においては、業務の効率的運営に努めたことにより減少した。

事業収支については、家畜診療所勘定に不足金が生じたが、家畜共済勘定・園芸施設共済勘定・任意共済勘定では剰余金が生じた。

第2 引受・損害評価の実績

(1) 農作物共済関係

(引受)

項目		組合員数	引受面積	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
区分		人	a	kg	円	円	円	円
水稲	半相殺方式	9,037	677,053.2	26,129,207	4,472,028,070	8,465,265	△ 1,614,429	6,850,836
	全相殺方式	188	48,765.7	1,955,986	319,796,089	774,861	94,153	869,014
	品質方式	258	57,206.4	-	347,311,731	1,859,549	△ 736,467	1,123,082
	小計	9,483	783,025.3	28,085,193	5,139,135,890	11,099,675	△ 2,256,743	8,842,932
陸稲		0	0.0	0	0	0	0	0
麦	令和5年産							
	半相殺方式	166	130,419.8	3,871,259	357,707,079	986,986	717,318	1,704,304
	全相殺方式	13	3,548.6	138,721	17,193,574	122,353	18,048	140,401
	災害収入共済方式	257	228,809.0	-	1,318,042,145	14,811,708	△ 3,775,685	11,036,023
	小計	436	362,777.4	4,009,980	1,692,942,798	15,921,047	△ 3,040,319	12,880,728
	令和6年産							
	半相殺方式	146	124,432.0	3,669,776	329,102,761	904,684	662,407	1,567,091
	全相殺方式	16	5,712.8	215,594	23,680,542	191,370	30,795	222,165
災害収入共済方式	245	216,630.6	-	1,269,413,789	15,005,941	△ 3,714,381	11,291,560	
小計	407	346,775.4	3,885,370	1,622,197,092	16,101,995	△ 3,021,179	13,080,816	

※農作物共済麦の令和6年産については、決算時の引受内容を記入。

△: 納入保険料

○水稲

- ・前年対比
- ・引受概況

引受組合員数:91.9%・引受面積:93.2%
 令和5年産の引受組合員数は9,483人で、前年より834人の減少、引受面積は7,830haで前年より570haの減少となった。
 要因としては、任意加入となったことにより、小規模作付農家の未加入や農家の高齢化等による作付中止、また収入保険移行により引受組合員数、引受面積ともに減少となった。
 引受方式別では、組合員数割合で半相殺方式が全体の95.3%、全相殺方式が2.0%、品質方式が2.7%となった。近年の気象災害による品質低下被害を受け、加入要件を満たす農家等に対し水稲品質方式への移行を推進した。また、青色申告を行っている農家等に対しては収入保険制度を含めた効果的な推進を行った。

○麦

- ・前年対比
- ・引受概況

引受組合員数:95.6%・引受面積:96.0%
 令和5年産の引受実組合員数は436人で、前年より20人の減少、引受面積は3,628haで前年より150haの減少となった。
 要因としては、任意加入となったことによる未加入や農家の高齢化等による作付中止、また収入保険移行により引受組合員数、引受面積ともに減少となった。
 引受方式別では、組合員数割合で半相殺方式が全体の38.1%、全相殺方式が3.0%、災害収入共済方式が58.9%となった。収穫期の気象災害による品質低下被害の発生が多いことから、加入要件を満たす農家等に対し災害収入共済方式への移行を推進した。また、青色申告を行っている農家等に対しては収入保険制度を含めた効果的な推進を行った。

(被害)

区分		項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	共済金 共済金額
水稲	半相殺方式	人	64	kg	円	%
	全相殺方式		41	24,005	3,672,119	0.1
	品質方式		66	69,539	8,132,465	2.5
	小計		171	109,364	11,873,984	3.4
陸稲			0	0	0	0.0
麦	半相殺方式		9	2,221	184,332	0.1
	全相殺方式		4	2,883	393,907	2.3
	災害収入共済方式		61	287,367	17,257,966	1.3
	小計		74	292,471	17,836,205	1.1

○水稲 ・被害概況 出穂期の7月、8月が高温で推移した影響で、県下全域で白未熟粒や胴割粒等が発生し、減収及び品質低下となる被害が発生した。8月、9月の降雨により倒伏が発生した。7月31日に玉村町、伊勢崎市、前橋市、高崎市で発生した雹により、稲の穂や茎が損傷する被害を受けた。病害については、紋枯病、内穎褐変病の発生が多く、平坦地域で、もみ枯細菌病がやや多かった。中山間地域を中心にいもち病、稲こじ病が散見された。
 なお、群馬県公表の「令和5年産水稲の作況調査結果と当面の技術対策」(令和5年10月15日現在)によると、県内の作柄は「並」となった。

○麦 ・被害概況 出穂期の4月が高温で推移した影響で、枯れ熟れ症状が平年より多く見られた。5月の降雨により大麦を中心に倒伏が一部で発生した。病害については、うどんこ病が見られ、なまぐさ黒穂病、赤かび病が僅かに発生した。
 なお、群馬県技術支援課公表の「令和5年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策」(令和5年6月20日現在)によると、県内の平均作柄は「並～やや不良」となった。

(支払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源					実支払共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
水稲	令和年月日	5.12.26～ 6.5.2	円 23,678,568	円 611,664	円 8,842,932	円 14,223,972	円 0	円 0	% 100.0
陸稲	-	-	0	0	0	0	0	0	0.0
麦	5.9.21～ 5.12.26	-	17,836,205	0	12,880,728	4,955,477	0	0	100.0

(損害防止)

水稲・麦の病虫害防除等の損害防止事業に11,465,906円を使用し、各支所において関係機関と連携し、防除薬剤等を加入者に配布した。また、中央支所においては、水稲種もみ温湯消毒機の貸し出しを行い、水稲種もみの温湯消毒を行った。

(2) 家畜共済関係

(引受)

○死亡廃用共済

区分	項目		引受頭数	引受頭数 事業計画頭数	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	有資格頭数	事業計画頭数						
搾乳牛	頭	頭	頭	%	千円	円	円	円
育成乳牛	32,880	26,044	22,947	88.1	4,359,892	102,187,743	102,141,383	204,329,126
子牛等		10,310	9,802	95.1	1,621,542	8,217,038	8,199,700	16,416,738
繁殖雌牛	57,400	4,391	3,624	82.5	1,082,471	4,007,759	3,987,733	7,995,492
育成肥育牛		24,329	21,730	89.3	5,068,537	28,464,942	28,408,689	56,873,631
子牛等			1,982					
種豚	50,850	10,076	6,720	66.7	431,052	192,103	123,480	315,583
合計	141,130	75,150	64,823	86.3	12,563,494	143,069,585	142,860,985	285,930,570

・前年対比 頭数 94.1% 共済金額 84.5%

・引受概況 搾乳牛・育成乳牛・繁殖雌牛・育成肥育牛は頭数・共済金額ともに前年度を下回った。種豚については、前年度より2戸引受戸数が増加となったことより、頭数・共済金額ともに増加した。

○疾病傷害共済

区分	項目		引受頭数	引受頭数 事業計画頭数	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	有資格頭数	事業計画頭数						
乳用牛	頭	頭	頭	%	千円	円	円	円
子牛等	32,880	23,840	21,912	91.9	592,216	118,821,589	118,815,965	237,637,554
				425				
肉用牛	57,400	7,507	6,929	92.3	111,097	19,545,045	19,543,937	39,088,982
子牛等				746				
種豚	50,850	2,071	406	19.6	280	21,432	14,281	35,713
合計	141,130	33,418	29,247	87.5	703,593	138,388,066	138,374,183	276,762,249

・前年対比 頭数 96.1% 共済金額 187.2%

・引受概況 頭数は、全区分とも減少した。乳用牛・肉用牛の共済金額については、令和5年度から適用されている危険段階別掛金率の設定方法に改正があり、同じ掛金で共済金額を選択でき、低位の共済金額でも高位の共済金額でも農家負担が変わらないことから共済金額が増加した。

○特定包括肉豚共済

区分	項目 有資格頭数	事業計画頭数	引受頭数	引受頭数 事業計画頭数	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	頭	頭	頭	%	千円	円	円	円
特定包括肉豚	542,900	81,768	43,342	53.0	310,015	122,487	78,265	200,752

- ・前年対比 頭数 98.6% 共済金額 80.6%
- ・引受概況 戸数は前年度と同値であるが、引受頭数・共済金額ともに減少した。

(事故)

○死亡廃用共済

区分	項目 死亡頭数	廃用頭数	総頭数	支払共済金
	頭	頭	頭	円
搾乳牛	911	311	1,222	185,625,999
育成乳牛	356	9	365	14,557,861
子牛等	284	0		
繁殖雌牛	39	13	52	10,792,887
育成肥育牛	883	16	899	45,753,089
子牛等	792	1		
種豚	1	0	1	68,000
合計	2,190	349	2,539	256,797,836

- ・事故概況 全体的に、頭数は減少傾向で、対前年度比86.6%であった。支払共済金については繁殖用雌牛・種豚を除き減少し、対前年度比85.1%であった。

○疾病傷害共済

区分	項目 件数	支払共済金
	件	円
乳用牛	17,533	214,444,885
子牛等	876	
肉用牛	3,935	41,983,802
子牛等	2,484	
種豚	2	27,945
合計	21,470	256,456,632

- ・事故概況 肉用牛・種豚については増加したが、乳用牛については減少した。全体では減少しており、対前年度比で頭数98.9%、支払共済金93.2%であった。

○特定包括肉豚共済

区分	項目	死亡頭数	支払共済金
特定包括肉豚		頭	円
		0	0

・事故概況 加入農家が、事故除外方式(特定の事故のみを補償対象とする)を選択していることから、対象事故は発生しなかった。

(損害防止)

実施種目	対象頭数又は回数	経費概算	摘要
特定損害防止	422 頭	1,956,120 円	牛
一般損害防止 予防衛生措置	114,857	6,333,658	牛・豚
講習会、講話会	-	-	

- ・特定損害防止事業(国補助事業)については、診療所において周産期疾患を中心に、乳房炎、運動器病、繁殖障害を対象に実施した。
- ・一般損害防止事業については、予防衛生措置のための薬剤等を配布した。

(診療所)

診療所名	職員数	診療件数		雑収入	損害防止事業		防疫業務	摘要
		共済事故	事故外		特損	経費概算		
家畜診療所	獣医師	9	4,034	789	422	1,956,120	牛	1,118
	事務職	1					豚	629

- ・診療件数の内、事故外は未加入畜の診療であり、雑収入には人工授精・受精卵移植等が含まれる。
- ・診療件数は若干増えたが、事故外診療件数、および雑収入は若干減少した。
廃業により農家戸数が減少する中で、新規の診療対象農家が増えたことにより全体の診療件数は前年度と変わらない。
- ・防疫業務について牛はアカバネ病、5種混合予防注射であり、豚で豚熱(CSF)予防注射である。

(3) 果樹共済関係

(引受)

年産	項目		組合員数	引受面積	標準収穫量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	区分								
令和5年産	りんご	半相殺方式	人 23	a 1,024.4	kg 250,523	円 85,600,000	円 1,408,499	円 383,914	円 1,792,413
		全相殺方式	0	0.0	0	0	0	0	0
		小計	23	1,024.4	250,523	85,600,000	1,408,499	383,914	1,792,413
	ぶどう		0	0.0	0	0	0	0	0
	なし	半相殺方式	12	443.8	115,961	40,190,000	594,174	△ 164,403	429,771
		全相殺方式	0	0.0	0	0	0	0	0
		小計	12	443.8	115,961	40,190,000	594,174	△ 164,403	429,771
	合計		35	1,468.2	366,484	125,790,000	2,002,673	219,511	2,222,184

- りんご ・前年対比 引受組合員数:88.5%・引受面積:94.5%
 ・引受概況 収入保険移行及び未継続により減少した。
- なし ・前年対比 引受組合員数:92.3%・引受面積:91.3%
 ・引受概況 収入保険移行により減少した。

△:納入保険料

(被害)

項目		被害組合員数	共済減収量	共済金	共済金 共済金額
区分					
りんご	半相殺方式	人 12	kg 66,569	円 13,949,700	% 16.3
	全相殺方式	0	0	0	0.0
	小計	12	66,569	13,949,700	16.3
ぶどう		0	0	0	0.0
なし	半相殺方式	8	25,097	5,434,900	13.5
	全相殺方式	0	0	0	0.0
	小計	8	25,097	5,434,900	13.5
合計		20	91,666	19,384,600	15.4

- りんご ・被害概況 ・4月の降霜により花芽の壊死及び結実不良が発生した。
 ・8月の降ひょうにより果実が損傷する被害が発生した。
- なし ・被害概況 ・4月の降霜により花芽の壊死及び結実不良が発生した。
 ・7月中旬から9月中旬までの高温と降雨不足により、水浸状果肉障害とコルク状果肉障害が発生した。

(支払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源					実支払共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
りんご	半相殺方式	令和 年 月 日 6.2.19	円 13,949,700	円 -	円 -	円 -	円 -	円 -	% 100.0
	全相殺方式	-	0	-	-	-	-	-	0.0
	小計	6.2.19	13,949,700	-	-	-	-	-	100.0
ぶどう		-	0	-	-	-	-	-	0.0
なし	半相殺方式	6.2.19	5,434,900	-	-	-	-	-	100.0
	全相殺方式	-	0	-	-	-	-	-	0.0
	小計	6.2.19	5,434,900	-	-	-	-	-	100.0
合計		6.2.19	19,384,600	15,344,655	2,222,184	1,817,761	0	0	100.0

(損害防止)

りんご、なしの病虫害防除を目的として、244,419円を使用し、防除薬剤等を加入者に配布する損害防止事業を行った。
また、果樹園地を対象に、1点の土壌診断(経費770円)を行った。

(参考:引受)

年産	区分	項目	組合員数	引受面積	標準収穫量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
令和6年産	りんご	半相殺方式	23	1,031.6	249,904	88,530,000	1,394,403	380,204	1,774,607
		全相殺方式	0	0.0	0	0	0	0	0
		小計	23	1,031.6	249,904	88,530,000	1,394,403	380,204	1,774,607
	ぶどう		0	0.0	0	0	0	0	0
	なし	半相殺方式	12	430.6	109,806	38,230,000	650,776	△ 179,862	470,914
		全相殺方式	0	0.0	0	0	0	0	0
		小計	12	430.6	109,806	38,230,000	650,776	△ 179,862	470,914
	合計		35	1,462.2	359,710	126,760,000	2,045,179	200,342	2,245,521

△:納入保険料

(4) 畑作物共済関係

(引受)

区分		項目	組合員数	引受面積(大豆) 引受箱数(蚕繭)	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)		
			人	a	kg	円	円	円	円		
大豆		半相殺方式	4	1,674.4	18,641	1,604,827	2,241	△	△		
		全相殺方式	1	175.0	2,883	798,591	17,868				
		小計	実 5	1,849.4	21,524	2,403,418	20,109				
蚕繭		春蚕繭	37	161.63	4,126	10,325,260	15,451				
		初秋蚕繭	17	91.59	2,151	5,150,010	7,385				
		晩秋蚕繭	38	176.12	4,178	10,273,280	27,922				
		小計	延 92 実 40	429.34	10,455	25,748,550	50,758				
合計						28,151,968	70,867			41,751	112,618

△: 納入保険料

大豆
 ・前年対比 引受組合員数:83.3%・引受面積:91.4%
 ・引受概況 令和5年産については、半相殺方式から全相殺方式へ1戸移行した。

蚕繭
 ○春蚕繭 ・前年対比 引受組合員数88.1%・引受箱数98.1%
 ○初秋蚕繭 ・前年対比 引受組合員数:81.0%・引受箱数89.3%
 ○晩秋蚕繭 ・前年対比 引受組合員数:92.7%・引受箱数:100.6%
 ○引受概況 全蚕繭とも高齢化等により減少傾向にある。

(被害)

区分		項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	$\frac{\text{共済金}}{\text{共済金額}}$
大豆	半相殺方式		人 0	kg 0	円 0	% 0.0
	全相殺方式		1	936	259,272	32.5
	小計	実	1	936	259,272	10.8
蚕繭	春蚕繭		5	195	489,450	4.7
	初秋蚕繭		0	0	0	0.0
	晩秋蚕繭		6	307	770,570	7.5
	小計	延 実	11 9	502	1,260,020	4.9
合計				1,519,292	5.4	

大豆 ・被害概況 開花期以降の高温と少雨により落花や落莢が増加し結莢数が減少した。子実の減少によりほ場は収穫期になっても莖が枯れ上がらない青立ちが発生した。青立ちのほ場は子実が不稔で、小粒化等の生育不良が発生した。

蚕繭
○春蚕繭 ・被害概況 凍霜害および膿病・その他気象災害(生理病)の被害が発生した。
○初秋蚕繭 ・被害概況 被害なし
○晩秋蚕繭 ・被害概況 膿病および生理病・その他気象災害(生理病)の被害が発生した。

(支払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源					実支払共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
大豆	半相殺方式	令和 年月日 -	円 0	円 -	円 -	円 -	円 -	円 -	% 0.0
	全相殺方式	6.3.8	259,272	-	-	-	-	-	100.0
	小計	6.3.8	259,272	-	-	-	-	-	100.0
	合計	5.9.7~ 6.3.8	1,519,292	849,997	112,618	556,677	0	0	100.0
蚕繭	春蚕繭	5.9.7	489,450	-	-	-	-	-	100.0
	初秋蚕繭	-	0	-	-	-	-	-	0.0
	晩秋蚕繭	5.12.22	770,570	-	-	-	-	-	100.0
	小計	5.9.7~ 5.12.22	1,260,020	-	-	-	-	-	0.0

(損害防止)

○大豆 病虫害防除を目的として、37,006円を使用し、防除薬剤等を加入者に対し配布する損害防止事業を行った。

○蚕繭 養蚕経営の安定を目的に、病虫害防除に208,710円を使用して、損害防止事業を行った。

(5) 園芸施設共済関係

(引受)

施設区分	項目	組合員数	引受棟数	設置面積	共済価額	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
		人	棟	a	千円	千円	円	円	円
ガラス I 類		0	0	0.0	0	0	0	0	0
〃 II 類		113	143	1,815.0	2,956,816	2,102,995	7,125,684	2,253,112	9,378,796
プラスチックハウス I 類		1	1	1.0	154	62	160	111	271
〃 II 類		1,999	10,323	21,944.0	6,992,339	4,920,853	56,989,614	△ 10,719,252	46,270,362
〃 III 類		419	538	6,502.0	3,967,000	2,950,227	25,366,778	4,213,405	29,580,183
〃 IV 類甲		320	450	4,633.0	5,440,148	3,799,009	15,926,702	△ 3,503,696	12,423,006
〃 IV 類乙		199	256	2,763.0	3,763,473	2,751,063	6,399,148	475,986	6,875,134
〃 V 類		53	57	671.0	812,322	576,655	1,596,996	69,645	1,666,641
〃 VI 類		272	4,454	10,770.0	2,589,817	1,638,897	9,490,644	4,313,198	13,803,842
〃 VII 類		41	70	1,538.0	73,474	59,271	334,058	91,269	425,327
合計		3,417	16,292	50,637.0	26,595,543	18,799,032	123,229,784	△ 2,806,222	120,423,562

※共済価額及び共済金額は四捨五入により合計値と一致しない。

△:納入保険料

- ・前年対比 引受組合員数:97.0%・引受棟数:97.1%・引受面積:97.2%
- ・引受概況 廃業や解約、規模縮小などの理由により、前年と比べると組合員数・引受棟数・引受面積が減少した。

(被害)

施設区分	項目	被害		損害の額	共済金						共済金 共済金額	
		組合員数	棟数		特定 園芸施設	附帯施設	施設内 農作物	撤去費用	特定園芸施 設復旧費用	附帯施設 復旧費用		合計
ガラス I類	人	棟	円	円	円	円	円	円	円	円	円	%
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
II類	12	14	4,483,311	857,500	2,353,775	201,941	0	0	14,176	3,427,392		0.2
プラスチックハウス I類	被害なし											
II類	230	666	58,201,189	42,064,661	146,459	1,249,953	0	0	11,088	43,472,161		0.9
III類	47	57	17,155,765	10,826,470	212,401	1,703,806	0	0	136,219	12,878,896		0.4
IV類甲	42	51	13,867,860	8,778,457	654,445	1,213,254	0	0	7,304	10,653,460		0.3
IV類乙	21	31	19,203,405	12,881,536	417,090	1,401,104	0	0	149,181	14,848,911		0.5
V類	3	3	1,601,934	1,281,546	0	0	0	0	0	1,281,546		0.2
VI類	5	5	427,527	268,384	0	0	0	0	0	268,384		0.0
VII類	3	4	272,774	213,994	0	0	0	0	0	213,994		0.4
合計	363	831	115,213,765	77,172,548	3,784,170	5,770,058	0	0	317,968	87,044,744		0.5

・被害概況 降ひょうにより中部・西部において被覆材・本体に被害が発生した。また、雪害により全損する被害が発生した。病虫害では、主に東部においてキュウリのモザイク病や黄化えそ病等が発生した。

(支払)

実支払共済金	共済金支払財源					実支払共済金 共済金
	保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
円	円	円	円	円	円	%
87,044,744	2,925,659	84,119,085	0	0	0	100.0

※手持掛金充当額については、当年度の経過手持共済掛金及び前年度の未経過手持共済掛金から支出している。

(損害防止)

損害の未然防止と発生した被害の拡大を防ぐため、4,060,738円の損害防止事業費で粘着補虫シートやビニール補修用テープ等の損害防止用品を加入者に配布した。

(6) 建物共済関係

(引受)
農家建物

区分	項目	引受棟数	共済金額	共済掛金		1棟当たり 平均共済金額	保険料	保険手数料
				純共済掛金	賦課金			
		棟	千円	円	円	円	円	円
総合共済		12,375	135,573,650	206,394,134	93,323,742	10,955,446	89,915,363	30,121,647
収容農産物Aタイプ		-	-	-	-	-	-	-
収容農産物Bタイプ		(1)	3,000	6,300	2,700	3,000,000	2,700	688
火災共済		69,799	809,814,200	382,706,004	312,485,044	11,602,089	208,557,314	84,465,712
合計		82,174	945,390,850	589,106,438	405,811,486	11,504,744	298,475,377	114,588,047

・前年対比 引受棟数:95.8%・共済金額:96.3%

・引受概況 総合共済は、自然災害が多発していることで火災共済から切り替える加入者や新規の加入者があり、共済金額で前年対比101.5%と増加する一方で、火災共済は、同対比95.5%で減少している。

(事故)
農家建物

区分	項目	事故棟数	共済金額 (イ)	支払共済金(ロ)		保険金	被害率 (ロ)/(イ)
				火災等	風水害等		
		棟	千円	円	円	円	%
総合共済		394	4,698,900	15,218,355	68,473,773	25,269,653	1.8
収容農産物		-	-	-	-	-	-
火災共済		371	5,042,000	268,192,233	-	80,457,527	5.3
合計		765	9,740,900	283,410,588	68,473,773	105,727,180	3.6

(原因別事故発生状況)

農家建物

事故原因別		事故棟数	共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	保険金	被害率 (ロ)／(イ)
		棟	千円	円	円	%
火災	電気配線等の漏電	8	41,900	40,848,282	12,254,483	97.5
	たき火の火	1	3,000	3,600,000	1,080,000	120.0
	その他の原因による火災	2	21,000	1,367,019	410,104	6.5
	ストーブ関係の火	4	34,600	26,217,083	7,865,123	75.8
	その他	18	285,200	148,270,000	44,480,994	52.0
	火災計	33	385,700	220,302,384	66,090,704	57.1
拡張担保	落雷	242	3,469,700	32,956,177	9,886,740	0.9
	物体の落下・飛来等	13	240,000	1,149,349	344,802	0.5
	盗難によるき損・汚損	66	808,100	2,753,508	826,036	0.3
	車両の飛び込み等	15	180,700	2,605,348	781,600	1.4
	その他	75	997,500	23,643,822	7,093,125	2.4
	拡張担保計	411	5,696,000	63,108,204	18,932,303	1.1
自然災害	321	3,659,200	68,473,773	20,704,173	1.9	
収容農産物	-	-	-	-	-	-
合計	765	9,740,900	351,884,361	105,727,180	3.6	

・被害概況 支払共済金は、前年対比で火災が116.4%、拡張担保が65.9%、自然災害が104.1%で、全体で100.3%と増加した。

(7) 農業経営収入保険

(引受・支払状況)

全国目標10万 経営体に対する 組合目標	令和5年度目標戸数	令和5年度加入戸数			令和5年度支払保険金(令和4年加入分)		
		個人	法人	計	加入戸数	支払戸数	支払額
戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	円
2,400	2,400	1,689	134	1,823	1,430	554	1,432,061,846

(引受)

全国10万経営体目標対比 76.0%

令和5年度目標対比 76.0%

(支払関係)

5月・6月の降雹及び、梅雨期からの長雨により果樹、野菜類等に被害が発生。

新型コロナウイルス感染症等の影響による需要の減少。

このほか、病気、けがでの収入減少が要因。